



胎児期からの脳発達 ～発達保育実践政策学の追究～



近年、生涯にわたる健康や疾病、教育等の問題において「人生最初期の発達」の重要性が注目されている。本シンポジウムでは、医学・生物学分野で研究が進んでいる胎児期からの脳発達に焦点を当て、大脳皮質の発生・発達のプロセスや、早期環境が脳や認知機能の発達に与える影響について議論する。

【日時】 令和3年2月8日(月) 14:00～16:00 (13:30～開場)

- 本シンポジウムはオンライン (Zoomウェビナー) で開催します
- 参加には事前登録が必要です (参加費無料、定員450名)

【プログラム】 総合司会：野澤 祥子 (東京大学大学院教育学研究科 准教授)

企画趣旨説明 (14:00～)：遠藤 利彦 (日本学術会議第一部会員・東京大学大学院教育学研究科 教授)

第1部：講演 (14:05～15:15)

- 講演①：丸山 千秋 (東京都医学総合研究所 脳神経回路形成プロジェクト プロジェクトリーダー)

「大脳新皮質形成の仕組み～神経発生学研究から～」

- 講演②：城所 博之 (名古屋大学 医学部附属病院 小児科 助教)

「大脳新皮質形成の仕組み～ヒト早産児研究から～」

第2部：パネルディスカッション (15:25～15:55)

- パネリスト：松井 三枝 (日本学術会議第一部会員・金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科 教授)

丸山 千秋 (東京都医学総合研究所 脳神経回路形成プロジェクト プロジェクトリーダー)

城所 博之 (名古屋大学 医学部附属病院 小児科 助教)

多賀 厳太郎 (東京大学大学院 教育学研究科 教授)

閉会挨拶 (15:55～16:00)：秋田 喜代美 (東京大学大学院教育学研究科 教授・研究科長)

シンポジウムの詳細・お申し込みについてはこちら

発達保育実践政策学センター (Cedep) ウェブサイト内の下記URLからお申し込み下さい

URL: <http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/event/22470/>

